

千葉被災

「屋根補修で転落多発」

松波総合病院
医師らが帰還
事故防止支援訴え



千葉県での医療支援活動を終え、出迎えた病院スタッフに活動報告する八十川雄図医師(中央)ら。羽島郡笠松町田代、松波総合病院

台風15号で被災した千葉県で医療支援に当たった松波総合病院(羽島郡笠松町)の全日本病院医療支援班(AMAT)が18日夜、活動を終えて同病院に戻った。派遣された医師は「屋根の補修で転落しけがをする高齢者が多く、事故を防ぐための支援が必要」と振り返った。

全日本病院協会(東京)の要請を受け、救急総合診療科部長の八十川雄図医師と看護師、臨床工学技士の

3人が16、18日、同県館山市の災害拠点病院「安房地域医療センター」で、同病院のスタッフや他のAMAT隊と連携して外来患者の診察や病院間の搬送に当たった。

八十川医師によると、当初想定した熱中症患者は少ない一方、屋根が壊れた住宅が広範囲に点在し、補修時に住民が転落する事故が多発。「自治体は屋根を覆うブルーシートを配って回るだけで、補修は住民自らしなければならぬ。医療の前に、事故を減らす取り組みが大切」と指摘した。さらに「南海トラフ地震が起きた際、松波総合病院

は愛知県から多くの患者や医療スタッフを受け入れることになる。任務の割り振

り方などを考える上で今回の経験を役立てたい」と語った。(亀山大樹)